

東永谷中だより

横浜市立東永谷中学校

令和3年4月号

新たな出発

校長 青木 照美

春うららかな気持ちの良い季節となりました。地域の皆さま、保護者の皆さまにおかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より、本校の教育活動におきまして、ご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

初めまして。私は、今年度東永谷中学校の校長に着任いたしました、青木照美と申します。新任の校長です。経験豊富で立派な小池校長先生の後を引き継ぐには、大変に荷が重いのですが、私らしくやっていたらと思っております。今後、様々にご指導いただきたく存じますが、どうぞ、よろしく願いたします。

さて、先日の4月7日（水）には、令和3年度の始業式、入学式が執り行われました。コロナ禍でしたので、始業式は放送で行い、入学式では、ご来賓方々をお招きできず、大変心苦しく残念でなりません。一日も早いコロナ感染の収束を願うばかりです。ただ、7日は、晴天に恵まれ、生徒のみなさんの新たな出発を祝福してくれているようでした。

初めての学校だよりの巻頭言を書くことに緊張を感じていますが、始業式と入学式で話をさせていただいた内容を書きたいと思っております。東永谷中学校に着任して、まず感じたことは、明るい、ということです。校舎の雰囲気も校長室に聞こえてくる様々な声も明るくて心地良いものでした。正門から校庭につながる雰囲気や職員玄関の吹き抜け、廊下やホール、スロープにかかる大きな窓など、素敵な場所がたくさんあります。そして、体育館や校庭から聞こえてくる部活動の声、職員室から聞こえる先生方の笑い声、どれも明るくて幸せを感じました。そして、「自治の精神」です。「自分で考え判断し、自分の行動が回りに与える影響も考え責任ある行動ができる生徒のみなさんであるとお聞きしました。素晴らしい、の一言です。これから、みなさんと一緒に学校生活を送ることができると思うと楽しみでしかたありません。

それから、校長職を務めるにあたり、大事にしたいことを話しました。それは、生徒のみなさんが安全で安心して学校生活を送れるようにしたい、ということです。月並みですが、一番大切だと思っております。それは、命にかかわるからです。ハード面、ソフト面の両面が安全で安心でなくてはなりません。施設面などのハード面、ソフト面は生徒のみなさんの

心にかかわることです。みなさんの悩みなどをしっかり受け止め、いつでも笑顔で安心して生活できるようにしたいと思います。

また、入学式では、『桜梅桃李』の話をさせていただきました。この言葉の意味は、桜、梅、桃、李（すもも）、それぞれが独自にきれいな花を咲かせるというところから、人にはそれぞれ個性があり、その個性を決して否定するのではなく、受け入れ認めあう、ということです。自他の人格を尊重する、個性を認め合うことは、学校生活の中で、本当に大切にしてほしい、と話しました。このことができないといじめにつながるからです。いじめは、絶対にいけません、絶対にしないでほしいと話しました。このことは、当然、2、3年生に話した安心して学校生活を送ることができるようにするにつながります。私は、生徒のみなさんが卒業していく時に「この東永谷中で本当によかった。この先生に出会えて本当によかった」と誰もが思うことのできる学校をつくりたいと思っています。あたりまえと言われればそうかもしれませんが、誰もが、つまり一人残らず、そのように思うということは、簡単なことではありません。生徒のみなさん一人ひとりに居場所があり、安心して学校生活を送ることができる東永谷中学校であってほしいと思います。そのために私はなんでもします。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

<入学式>



<TV放送での着任式・始業式>

